

# 戊辰内乱期の

# 社会

## 佐幕と勤王のあいだ

宮間 純一 著

▼A5判・三三〇頁 / 定価：本体七、五〇〇円(税別)

ISBN978-4-7842-1829-5

【二〇一六年一月刊行予定】

鳥羽・伏見の戦いで幕を開けた戊辰内乱は、否応なく当時の社会全体を巻き込み、あらゆる身分の人びとに日和見を許さなかった。内乱の当事者たちはそれぞれの正当性を喧伝し、彼らの支配を受けることになる人びとは、時代が佐幕から勤王へと移りかわるなかで立場を表明することを迫られた。

みずからの拠るべき正当性を探し求める者、保身のために立場を翻す者、混乱に乗じて地位の上昇を図る者――、新出史料を活用しながらさまざまに思惑が交錯する内乱期の社会像を描出する。

### 序章

戊辰内乱史研究の現状と課題 / 戊辰内乱という地点 / 佐幕から勤王へ / 分析視角と本書の構成

◎ 予定内容目次 ◎

### 第1部 「官軍」の正当性

第1章 「官軍」と王権の表象  
錦旗の登場 / 日月旗の運用にみる儀礼 / 識別標識としての菊章旗 / 「官軍」の演出

第2章 公家の位置―鷲尾隆聚を中心に―

政治意識の発露と政局への登場 / 高野山出張と内乱の勃発 / 戊辰内乱における公家の位置

補論 榎本軍首脳部処分問題にみる「朝敵」寛典の論理

ブリュネラの処分と対仏交渉 / 処分決定の延期 / 黒田清隆の寛典論と木戸孝允の赦罰論 / 榎本軍首脳部の赦免

### 第2部 旧幕府抗戦論の限界

第3章 旧幕府抗戦論の正当性

江戸府下における佐幕論の展開―大政奉還から慶応三年末まで― / 開成所会議での抗戦論 / 天皇権威をめぐって / 「神君」徳川家康への回想

第4章 堀田正倫の上京―藩士の日記を素材に―

佐治三左衛門日記について / 「哀訴状」の目的 / 正倫上京の趣旨 / 滞京から帰国まで

第5章 「朝敵」藩の恭順理論―伊予松山藩を事例に―

鳥羽・伏見の戦い前後 / 藩は決定までの道程 / 松山開城 / 征討軍内の不和 / 領民の「朝敵」意識

### 第3部 社会集団の欲求と草莽隊

第6章 神職集団の武装化

吉田家本所と神威隊結成 / 神威隊結成の背景 / 神職の武装化 / 配下神職への影響

第7章 草莽隊の上昇志向―下野利鎌隊を事例に―

利鎌隊の構成 / 社会集団と身分表象 / 利鎌隊の変容 / 旧日光奉行所同心との確執と活動の終焉

第8章 地方大社の勤王運動―香取神宮尚古隊―

朝廷権威への傾斜 / 尚古隊の結成 / 尚古館と上昇志向 / 騒動の鎮圧

### 第4部 地域の葛藤

第9章 関東農村の佐幕的状况―上総国を中心に―  
日本律令国家による社会編成 / 律令制下の地域社会と共同体 / 今後の課題

第10章 旧旗本阿部詮吉郎の朝臣化と知行所―農兵隊の動向を中心に―

旗本阿部家と幕末期の軍役 / 内乱勃発と農兵取立 / 阿部詮吉郎の朝臣化と農兵隊の位置づけ / 領主との一体化と離断

終章―結論と展望―

みやま・じゅんいち…1982年千葉県生。2012年中央大学大学院博士後期課程修了。博士(史学)。千葉県文書館嘱託職員を経て、現在、宮内庁書陵部研究員および中央大学兼任講師、立正大学非常勤講師。主な著書に『国葬の成立―明治国家と「功臣」の死―』(勉誠出版、2015年)など。

## 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	戊辰内乱期の社会	本体7,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1829-5	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				



本書HPのQRコード

## 徳川社会と日本の近代化

笠谷和比古編

19世紀アジアにおいて、日本が欧米列強の植民地にならず社会の近代化を達成しえた因は、徳川日本の文明史的力量にあったのか…。徳川社会はどのような力powerを、いかにして形成しえたのか、多分野の研究者の書き下ろし論文25本により総合的に究明する。

▶A5判・730頁／本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1800-4

## 熊本藩の地域社会と行政

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

近代社会形成の起点

永青文庫細川家文書に大量に残された地方行政記録綴「覚帳」や、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析を行うことで、19世紀段階の近世行政システムの全容を解明し、さらにそれらが近代社会の成立や地域の近代化にとって、どのような前提条件を提供することになったのかを明らかにする。

▶A5判・420頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1458-7

## 幕末期の老中と情報

佐藤隆一著

水野忠精による風聞探索活動を中心に

水野忠精を題材とした老中の情報収集を軸に、同時代の他の事例も交えて、幕末期の老中による政治情報収集の実態とその情報内容、さらにはこれらの扱われ方を実証的に分析することで、基本的な老中の情報収集ルートの枠組を明らかにする。敗者となった幕閣の政治活動にも一定の歴史的评价を与える。

▶A5判・520頁／本体9,500円(税別) ISBN978-4-7842-1702-1

## 日本近代化の諸相

梅溪昇著

第一部に概論として明治維新史研究の論稿2篇、第二部に初期条約改正・陸海軍・日清戦争などの個別研究9篇、第三部に但馬・尼崎・紀州地域における近代化の特質と様相をさぐる諸論文8篇、さらに史料1篇を収める。図表多数収録。

▶A5判・650頁／本体15,000円(税別) ISBN4-7842-0364-8

## 幕末・維新の西洋兵学と近代軍制

竹本知行著

大村益次郎とその継承者

幕末・維新の動きの中で、先人たちは国際環境に自らをどのように位置づけ、どのように西洋から兵学を受容し軍制を確立していったのか——。日本という近代国家形成と国民形成の推進に大きな役割を果たした軍隊の創設の軌跡を、大村益次郎とその遺志をついだ山田顕義らの動向にたどり、その政治史上の特性を探る。

▶A5判・340頁／本体6,300円(税別) ISBN978-4-7842-1770-0

## 宮津市立前尾記念文庫所蔵元勳・近代諸家書簡集成

佛教大学近代書簡研究会編

通信メディアや交通機関が発達する以前、書簡は最も重要な意思疎通手段であった。伊藤博文・桂太郎・原敬・山縣有朋ら政界人をはじめ明治・大正期に各界で活躍した139人の書簡225通を収録。翻刻のほか読み下しと解説を付した。

▶A5判・630頁／本体5,000円(税別) ISBN4-7842-1179-9

## 明治維新史という冒険

青山忠正著

佛教大学鷹陵文化叢書18

かつて「明治維新」は国家の模範、「勤王の志士」は国民の規範であったが、それらは国家が創りあげた虚像である。その本当の顔は身近なところに潜んでおり、明治維新の真の姿を見つけ出す作業は、文字通り冒険なのである。平易な文体と豊富な図版・地図で明治維新史の魅力を紹介する。

▶46判・332頁／本体2,400円(税別) ISBN978-4-7842-1394-8

## 明治維新期の政治文化

佐々木克編

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究成果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた一書。

▶A5判・390頁／本体5,400円(税別) ISBN4-7842-1262-0

## 海国日本の夜明け

フォス美弥子編訳

オランダ海軍ファビウス駐留日誌

日本海軍創成の助言者であったオランダ海軍中佐G・ファビウスの、連続3度のべ8カ月間にわたる本邦初紹介の駐留日誌のほかその間の動向をつなぐ公文書を収録。長崎を舞台とした幕府や西南各藩との交流、英米艦隊との駆け引きなど幕末の日蘭史を明かす貴重な史料集。

▶A5判・400頁／本体5,000円(税別) ISBN4-7842-1047-4

## 洋学史論考

佐藤昌介著

思文閣学叢書

明治維新の胎動を準備した大槻玄沢・高野長英・小関三英・福沢諭吉・渡辺崋山らの諸業績の分析を通して洋学の受容と発展を解明し、あわせて近代化に果たした軍事の科学化と軍制改革・軍楽などを論じる。

【内容】大槻玄沢の研究／高野長英と小関三英／幕末における洋学の軍事科学化に関する研究

▶A5判・410頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-0782-1

## ※近代日本と幕末外交文書編纂の研究

田中正弘著

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編纂構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめ具体的に考察。

▶A5判・480頁／本体9,800円(税別) ISBN4-7842-0958-1

## ※日本近代の成立と展開

梅溪昇教授退官記念論文集

梅溪博士の大阪大学退官記念論集。日本近世・近代に一石を投じる18論文。【内容】京都町衆伊藤仁斎の生活規範／山脇玄脩の門人たち／中井竹山の歴史観／書肆河内屋吉兵衛と橋本香坡／明治維新と郷村社／近世大坂の川渡制度／畿内在郷町における町政機構／近世後期における方薬種業の展開／大阪開商社と宇陀紙の流通 ほか

▶A5判・480頁／本体9,800円(税別) ISBN4-7842-0363-X

## 幕末期長州藩洋学史の研究

小川亜弥子著

幕末維新期の変革に洋学が如何なる役割を果たしたかを射程にすえ、この変革の重要な担い手となった長州藩の洋学の実態に、軍事科学化という側面から迫り、また洋学史的側面からのアプローチにより、長州藩明治維新史研究の空白を埋めることをも目指した意欲作。

▶A5判・284頁／本体6,800円(税別) ISBN4-7842-0967-0

## 岩倉具視関係史料 [全2巻]

佐々木克・藤井譲治・三澤純・谷川穰編

憲政資料室所蔵文書・対岳文庫所蔵文書・内閣文庫所蔵文書に次ぐ、第4の岩倉具視関係文書群を活字化。『岩倉公実記』編纂時に利用されたものの最も主要な部分で、東京奠都のいきさつや、他の史料集などで紹介されていない未刊行書簡や書類が多数。原本校正を綿密に行い、完全活字化。

▶A5判・総1108頁／本体24,000円(税別) ISBN978-4-7842-1659-8

## 幕末・維新を考える

原田敏一編

佛教大学鷹陵文化叢書2

【内容】近代への描き方—錦絵の世界(原田敏一)／近代への道—19世紀の東アジアと西ヨーロッパ(青山忠正)／明治維新と古代文化の復興(高木博志)／維新変革期の間人—高杉晋作の子ども(梅溪昇)／大久保利通の遺書(佐々木克)／史跡と人物を訪ねて(青山忠正)

▶46判・184頁／本体1,700円(税別) ISBN4-7842-1038-5

## 幕末維新期の陵墓と社会

上田長生著

畿内に広く散在する陵墓(天皇・皇族の墓)は、幕末維新期の政治変動を受け、大きくその性格を変えていく。本書では、陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目する。

▶A5判・400頁／本体6,200円(税別) ISBN978-4-7842-1604-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。